

HCMi コンソーシアム

2025 年 新春セミナーご案内

1. 日時 2025 年 1 月 21 日(火) (第一部 13:00-15:20) (第二部 15:30-17:00)
(受付開始 現地参加 12:30 オンライン参加 12:45)

2. 開催形態と開催場所(一部開催体制含む)

- (1) 現地参加: 産総研臨海副都心センター (第一部、第二部)
[産総研: 臨海副都心センター アクセス \(aist.go.jp\)](#)
- (2) 現地参加: 北海道拠点(IKEUCHI LAB) (第一部のみ)
[アクセス | IKEUCHI LAB \(ikeuchi-lab.com\)](#)
- (3) 現地参加: 産総研・関経連うめきたサイト (大阪) (第一部のみ)
[アクセス | JAM BASE](#)
[※ うめきたサイト開催は 関西経済連合会共催](#)
- (4) オンライン (第一部のみ)

3. セミナー構成

【第一部】「ものづくりにおける生成 AI とデータの利活用を考える」セミナー

13:15-14:45 講演 (30 分×3 講演 質疑応答含む)

- ① 『オープンで大規模な生成 AI 研究開発』
国立情報学研究所(NII) 所長 黒橋 禎夫 様
- ② 『フィジカル領域を対象とした AI 基盤モデルの研究開発』
産総研 人工知能研究センター 首席研究員 佐藤 雄隆 様
- ③ 『自発的なデータ提供を促すインセンティブ設計』
東京大学大学院工学系研究科 教授 西野 成昭 様

-----5 分休憩-----

(2) 14:50-15:20 パネルディスカッション

『ものづくりにおける生成 AI とデータの利活用を考える』

モデレータ 運営委員長 谷川 民生
パネリスト 講演者各位、NEDO AI ロボット部 部長 高田和幸 様

-----10 分休憩-----

【第二部】 15:30-17:00 意見交換会及びデモ展示

(産総研 臨海副都心センター現地参加者のみ)

以上

黒橋 禎夫（くろはし さだお） 様

国立情報学研究所 所長
京都大学 特定教授



講演題目：『オープンで大規模な生成 AI 研究開発』

生成 AI の「賢さ」が社会に大きなインパクトを与えていますが、大規模モデルの研究開発はクローズドでありモデルはブラックボックスです。2023 年 5 月に開始し現在 2000 名規模となった、オープンで組織横断的な生成 AI の研究開発 LLM-jp, さらに、2024 年 4 月に NII に設立した LLM 研究開発センターの取り組みと展望を紹介します。

（黒橋様略歴）

- 1994 年 京都大学大学院工学研究科博士課程修了。博士(工学)
- 2006 年 京都大学大学院情報学研究科教授
- 2023 年 同特定教授および国立情報学研究所長を併任。自然言語処理、知識情報処理の研究に従事。言語処理学会 10 周年記念論文賞、同 20 周年記念論文賞、文部科学大臣表彰科学技術賞等を受賞。
- 2024 年 国立情報学研究所内に大規模言語モデル研究開発センターを設置し、全国の研究者と透明性・信頼性の高い日本語版 LLM の構築を目指し研究開発を進めている。

佐藤 雄隆（さとう ゆたか） 様

産業技術総合研究所 人工知能研究センター 首席研究員



講演題目：『フィジカル領域を対象とした AI 基盤モデルの研究開発』

産総研では現在、フィジカル領域を対象とした AI 基盤モデルの研究開発を推進しています。これまでの AI はインターネット上のデータに依存し、主にインターネット上のサービスで活用されてきましたが、今後は実世界に直接作用し、物理的な環境で価値を創出する AI が求められます。インターネット上のデータは枯渇しつつあるとされており、今後は生成データや実空間から直接取得されたデータによる学習が主流になる可能性が高いです。さらに、AI の活用範囲も実空間全体へと広がっていくことが予想されます。本講演では、実データに依存しない生成データを用いた AI モデルの学習、およびロボット基盤モデルの研究開発加速に向けた取り組みを中心に紹介します。

（佐藤様略歴）

- 2001 年 北大・院・博士後期課程修了。博士(工学)。コンピュータビジョン研究グループ長等を経て、現在、産総研 人工知能研究センター 首席研究員。(兼)筑波大・理工情報生命学院 教授(連携大学院)

西野 成昭（にし の なりあき） 様

東京大学 大学院工学系研究科 技術経営戦略学専攻 教授



講演題目:『自発的なデータ提供を促すインセンティブ設計』

近年の AI の発展は目覚ましいですが、その背後には学習のために膨大なデータが必要となります。しかし、学習データは常に容易に入手可能とは限りません。例えば、創薬やヘルスケア等のライフサイエンス分野へ AI を応用する場合、コストやリスクなどの問題から、患者や医療機関が医療データを自発的に提供することが難しい場合もあります。機械学習では多くのデータが集まるほど良いパフォーマンスが期待でき、データ提供が最終的な製品化へ繋がれば、その便益を誰しもが享受できるようになります。このような構造は、経済学における公共財供給問題と類似しており、その応用としてデータ提供のインセンティブの構造を理論的なアプローチで研究しています。本講演では、そのようなデータ提供のインセンティブ設計の問題について、これまでに取り組んできた研究内容について報告します。

（西野様略歴）

2004 年 東京大学 人工物工学研究センター 博士研究員
2007 年 東京大学 人工物工学研究センター 共創工学研究部門 助教
2009 年 独立行政法人産業技術総合研究所 外来研究員
2009 年 東京大学 大学院工学系研究科 技術経営戦略学専攻 准教授
2009 年 東京大学 人工物工学研究センター 共創工学研究部門 准教授(兼務)
2010 年 京都産業大学 客員研究員
2017 年 Cranfield University, Visiting researcher (UK)
2018 年 Coventry University, Visiting researcher (UK)
2021 年 東洋大学 理工学部 非常勤講師
2022 年 東京大学 大学院工学系研究科 技術経営戦略学専攻 教授